

鹿児島県離島振興協議会

平成24年度 アイランドキャンパス事業

事業成果報告書・提言書

喜界白ゴマ活用に関する振興パッケージプランの構築

鹿児島大学

先端研究ゼミナール／雇用構築学ゼミナール／雇用構築学研究所

鹿児島県離島振興協議会
平成24年度 アイランドキャンパス事業
事業成果報告書・提言書

喜界白ゴマ活用に関する振興パッケージプランの構築

もくじ

- 事業目的 ■ 事業内容 ■ 事業責任者 ■ 事業遂行主体 ■ 連絡先 3
- 事業実施にあたり鹿児島県離島振興協議会事務局に提出した計画書 4
- アイランドキャンパス事業 in 喜界島 全日程 5
- 喜界島関係者に発送した白ゴマワークショップ/学習会＝振興会議を主とする事業趣意書 8
- 白ゴマ学習会＝振興会議ポスター 11

喜界島における
白ゴマ学習会＝振興会議
*当日出席者多数で



2012年12月6日(木)
喜界町役場 会議室 *
トレーニング室から変更

- 喜界島への事前調査その1 生産量日本一の白ゴマを活かす方法とは? 石橋 はるか 13
- 喜界島への事前取材その2 人と自然から喜界島振興の手がかりを探る 畑山 悠希 15
- 島に学び、人に学んだアイランドキャンパス 白ゴマ学習会＝振興会議レポート 畑山 悠希 18
- 観光面から喜界島振興の道を探る 畑山 悠希 20
- 番外編 INS 冬季講演会にて雇用構築学研究所の取り組みを報告 29

- 事業成果および提言 31
- 鼎談 アイランドキャンパス事業の細部へ 33

- 付録資料 事後アンケート I
- 農産物加工センターにて学んだこと 津川 遼 i

■ 事業目的

観光や地域資源による振興に重きを置いてこなかった(?)という喜界島において、観光や地域資源に対して地域発の活力を入れることによる総合振興効果を検討する。

この調査や研究をもとに、喜界島において新たな特産品の開発、人材創生、あるいは雇用創出が見込めるような提言を残す事が最大の目的である。

また、ワークショップや協働的な検討会議、あるいは交流学习会を通じて、地元住民の方々が喜界島の魅力について再発見するのも副次的目的となる。

■ 事業内容

事業立案に先立ち、2011年5月、そして2012年7月に、喜界町役場と喜界町商工会を事前訪問し、現地ニーズ調査を実施した。そこで同町が生産日本一である「白ゴマ」を観光振興に活かしたいという強い意欲を認識した。

そこで、当ゼミナールの学生が中心となって、特産品の開発を含む白ゴマの活用策について、白ゴマ収穫等の体験を通じて白ゴマを熟知し、そのうえで地元住民の方々とワークショップあるいは学習会を実施し、そこで白ゴマほか産業資源を共有し、それをさらに観光振興と人材育成に結び付けられるようアイデアを提供し(=パッケージプランの提供)、交換する(パッケージプランの検討)。

加えて、喜界島が観光産業や農商工連携事業に今後力を入れてゆくことが、同島内においてどれくらいの地域人材を創生し、雇用を創出することが出来るのかを研究する。

■ 事業責任者

野添幸輔 (のぞえこうすけ) 鹿児島大学法文学部法政策学科4年 事業リーダー

■ 事業遂行主体

先端研究ゼミナール (当事業の遂行ために法文学部内に特別形成された調査研究ユニット)

雇用構築学ゼミナール (法文学部内に設置された正規履修科目「演習」「課題研究」のうち

教員紺屋が指導責任を持つ同科目の通称名)

雇用構築学研究所 (司法政策研究科所属の紺屋が研究活動を遂行する際の研究組織)

■ 連絡先

紺屋博昭 鹿児島大学大学院司法政策研究科

〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-30

099-285-7621* konya@leh.kagoshima-u.ac.jp**

* ** 個人情報でも事務事業情報でもございません。そのまま掲載下さい。

■ 事業実施にあたり鹿児島県離島振興協議会事務局に提出した計画書

アイランドキャンパス事業実施計画書

事業名	喜界白ゴマ活用に関する振興パッケージプランの構築
選択するテーマ (該当するもの 1つに○印を)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源を活用した新しい特産品開発の方策について ○ 交流人口の拡大を図るための観光振興の方策について ・ その他（特に分野は問わない）
実施場所	(島名) 喜界島 (市町村名) 鹿児島県大島郡喜界町
実施予定期間	平成24年10月8日（月）～18日（木）
大学等の名称	(大学等の名称) 国立大学法人鹿児島大学 先端研究ゼミナール (住所) 〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-30 (電話) 099-285-7621* (FAX) 099-285-7621** (Eメール) k.nozoe-15@hotmail.co.jp*** ** ** 同前頁注記 (教官名) 大学院司法政策研究科教授 紺屋 博昭（専攻）雇用政策法
参加予定人数等 (予定)	教授・講師等（ 1 ）名 学生等（ 4 ）名 計（ 5 ）名
目的	これまで、観光や地域資源による振興に重きを置いてきていなかったという喜界島において、観光や地域資源に地域発の活力を入れることによる総合振興効果を検討する。この調査や研究をもとに、喜界島において新たな特産品の開発や、人材創生が見込めるような提言を残す事が最大の目的。また、ワークショップを通じて、地元住民の方々にも喜界島の魅力について再発見していただく。
事業内容	喜界町役場と喜界町商工会が、同町が生産日本一である「白ゴマ」を観光振興に活かしたいというニーズを、7月上旬に訪れた際の事前調査によって得た。そこで、当ゼミの学生が中心となって、特産品の開発などの、白ゴマの活用策についてワークショップを地元住民の方々と共に、産業資源の認識を共有し、観光振興と人材育成に役立てる。ワークショップ指導者として、商工会の基喜夫氏、岩川信一氏の参加承諾済み。加えて、観光産業に力を入れることが、同町内においてどれくらいの地域人材を創生することが出来るのかを研究する。この事業実現に向けて、喜界町商工会のご協力を頂けることになっている。
事業成果の地元への還元方法（シンポジウム等）	白ゴマの特産品開発や活かし方、そして白ゴマ関連観光産業振興に向けて、地元住民や商工会青年部の方々と共にワークショップを実施。白ゴマの活用方法、喜界島の観光プラン、地域人材創生についてまとめる。これら研究成果を、振興パッケージプランとしての冊子にまとめて、喜界町役場や喜界町商工会への提言とする。
これまでの離島における取組実績等 (他県での実績も含む)	離島における実績なし。

■ アイランドキャンパス事業 in 喜界島 全日程

【 第1回 喜界島渡航(事前取材1回目) 】

参加者：野添幸輔（鹿児島大学法文学部法政策学科）
石橋はるか（鹿児島大学大学院司法政策研究科）
紺屋博昭（鹿児島大学法科大学院司法政策研究科）

◆ 2012年9月10日

17:30 フェリーきかい 鹿児島本港北埠頭 出航
(船内泊)

◆ 9月11日

4:40 喜界島到着

↓

ビジネスホテル林へ移動後、仮眠休憩

↓

10:00 島内観光調査ならびに白ゴマ生産農家への取材

↓

13:00 喜界町役場を訪問取材・打ち合わせ

↓

16:00 喜界町農産物加工センターを取材

↓

0:10(翌12日) フェリーあまみ出航(船内泊)

◆ 9月12日

11:30 フェリーあまみ 鹿児島本港北埠頭到着 解散

【 第2回 喜界島渡航(事前取材2回目) 】

参加者：畑山悠希（鹿児島大学法文学部法政策学科）
紺屋博昭

◆ 2012年11月9日

13:30 鹿児島労働局職業安定部職業対策課にて実践型パッケージ事業等取材

◆ 11月13日

17:30 フェリーきかい 鹿児島本港北埠頭出航(船内泊)

◆ 11月14日

5:30 喜界島到着

↓

ぎなま荘へ移動、仮眠休憩

↓

10:00 島内の調査と取材

↓

16:30 喜界島観光物産協会へ取材

↓

ぎなま荘に宿泊

◆ 11月15日

9:00 島内の調査と取材

↓

11:30 喜界町商工会へ取材

↓

14:30 喜界町役場企画課へ取材

↓

15:00 エコツーリズム協議会を傍聴（畑山）

島内の調査と取材（紺屋）

↓

0:10(翌16日)フェリーあまみ 出航(船内泊)

◆ 11月16日

12:00 鹿児島本港北埠頭 到着 解散

【第3回 喜界島渡航（本番）】****

参加者：野添幸輔

津川遼（鹿児島大学法文学部法政策学科）

蘭知宏（鹿児島大学法文学部法政策学科）

畑山悠希

紺屋博昭

◆ 2012年12月5日

16:00 鹿児島本港北埠頭 北埠頭ターミナル1階入口 集合

↓

17:30 フェリーあまみにて出港(船内泊)

◆ 12月6日

4:40 喜界島到着

↓

ビジネスホテル林へ移動、仮眠休憩（野添・津川・蘭）

ぎなま荘へ移動、仮眠休憩（紺屋・畑山）

↓

10:00 朝日酒造株式会社工場を見学（紺屋・畑山）

↓

17:00 「白ゴマ振興会議」 喜界町役場会議室にて開催

↓

19:30 懇親会

ビジネスホテル林 宿泊（野添・津川・蘭）

ぎなま荘 宿泊（畑山）

↓

0:10(翌7日) フェリーあまみにて出航（紺屋）



◆ 12月7日

9:00~11:00 白ゴマ油生成体験 農産物加工センター（野添・津川・蘭・畑山）

↓

12:45 飛行機にて帰鹿（畑山）

17:00 飛行機にて帰鹿（野添・津川・蘭）

【 事後調査 】

◆ 12月17日 講師パネリストに対しアンケート発送（畑山）

返信分事後意見の集約作業等

**** 台風21号の接近により渡航路交通機関全不通のため、喜界島役場にて2012年10月18日実施予定だった白ゴマ学習会を同年12月6日に延期。

そのため、当初の計画にあった収穫体験活動や観光ボランティアガイド試行ツアー内容等、事業内容を一部変更して実施した。

■ 喜界島関係者に発送した白ゴマワークショップ／学習会＝振興会議を主とする事業趣意書

喜界島アイランドキャンパス事業
「白ゴマに学ぶ、白ゴマを活かす振興会議」

鹿児島大学

雇用構築学ゼミナール／先端研究ゼミナール

□ 実施目的

県企画振興課および町村会の支援を得て、喜界白ゴマの活用に関するパッケージプランの提案を手掛かりに、白ゴマに関わる喜界町の各界の皆さまから白ゴマについて深く教示を得て学習を進める。同時に、白ゴマ関連の観光資源化や産業振興に補正アイデアを提供し、検討ののち商品化や観光ルート活用の実現に取り組む。

- －学生がどこまで具体的なアクションを提供できるか不明だが、白ゴマ活用に関するアイデアを提供し、現場の声から教わり、現場を学ぶことで「喜界島アイランドキャンパス」を実現し、喜界島の皆さまとの交流を深める。
- －産業活性化のあるところ雇用創出ありという理論モデルを実証するため、雇用構築と雇用政策法を学習する学生ゼミナールが今回喜界島をフィールドにした白ゴマ振興パッケージプランを構想する。

□ 実施内容

- 1) 2012年10月18日(木) 17:00から19:00まで、町役場施設を会場に「ワークショップ／学習会『白ゴマに学ぶ、白ゴマを活かす振興会議』(仮称)を実施。
- 2) 同日前後にて農業体験学習を実施。蜜柑収穫や農産物加工を体験。
- 3) 2012年12月中旬をめどに報告書を作成。

- －県／町村会では単年度でアイランドキャンパス事業を実施するが、1)の実証あるいは深化のために以降も調査訪問、企画提案交流等を予定。

□ 実施準備

- | | |
|-----------|--|
| 2011年5月中旬 | ゼミナール所属学生3名で喜界島にて準備顔合わせ
喜界町商工会ほかの皆さんと交流 |
| 2012年5月中旬 | ゼミナール所属学生ほか4名にて喜界島にて事業展開ニーズ調査
喜界町役場訪問、喜界町商工会ほかの皆さんと交流
白ゴマ活用のニーズ把握 |
| 2012年9月中旬 | ゼミナール所属学生および指導教員にて事前打ち合わせ
喜界町役場訪問、喜界商工会等と連絡
白ゴマ生産農家(小野津、嘉鈍)での取材交流、収穫体験
喜界町農産物加工センターにて白ゴマ油圧搾過程等を見学取材 |

□ 喜界島アイランドキャンパス

「ワークショップ／学習会『白ゴマに学ぶ、白ゴマを活かす振興会議』(仮称)

日時：2012年10月18日(木) 17:00 - 19:00 ***** **12月8日に延期実施承前

場所：喜界町役場内会議室 or トレーニングルーム (予定)

主催：鹿児島大学 雇用構築学ゼミナール／先端研究ゼミナール

共催：喜界町、喜界商工会、JAあまみ喜界事業本部、白ゴマ生産農家の皆さま、島の皆さま、喜界町観光物産協会 (予定)

出演：ワークショップパネリスト兼学習会「白ゴマ活用振興講師」:

吉行 進 氏 (喜界町企画課)

實 浩希 氏 (同産業振興課)

岩川 信一 氏 (喜界町商工会)

竹下 繁樹 氏 (JAあまみ喜界事業本部)

南村 和弥 氏 (生産農家)

杉俣 紘二郎 氏 (生産農家)

上園田 健 氏 (喜界島観光物産協会 喜界島 島コーディネイター) *****

*****延期実施時には東亮輔氏(同)に交代

外内 淳 氏 (まち歩きボランティアガイド事務局)

ワークショップ兼学習会の進行:

ーラウンドテーブル配置(中央に向かって向き合う四角配置) 司会が必要な場合は、紺屋博昭が担当

1) はじめに／趣旨説明 参加者自己紹介

2) 白ゴマ活用に関するゼミナール学生らからのスライドプレゼン／提案・提示

(30分程度)

「白ゴマ生産現場とアグリツーリズムを意識した体験観光プラン化ー畑で白ゴマを知る」

野添 幸輔 (雇用構築学ゼミナール／先端研究ゼミナール)

「白ゴマ宣伝広告ーゆるキャラどうでしょう？」

津川 遼 (同)

タイトル、学生発表担当者は予定

「ゆるキャラスケッチ大会企画へ」

野添 幸輔

「白ゴマ『ごまかす』ートッピングオイル『GOMAKASHI』に対抗して」

蘭 知宏 (同)

「白ゴマガイドの可能性ー京都観光ガイド体験との対比から」

畑山 悠希 (同)

3) 喜界町の白ゴマの『現場』担当者からの解説、情報提供による学習、そして意見交換

(80分程度)

4) 白ゴマ活用の課題共有ー今後に向けて

ー学生がスライド資料にてプレゼン実施、その都度指導および意見交換でも可

ー会議ポスター作製ののち、一部展開および周知を依頼(町役場内でリーフレット配置等)

ーご登壇ご登壇の皆さまへ

文末記載のゼミナール学生らが各テーマで短時間の発表をしますので、これに専門家としてのご指導ご助言を頂ければ幸いです。「そんな発表を聞かなくても、ひとつワシが講釈してやろう」というスタンスでご発言頂いても構いません。あるいは「白ゴマや関連企画について、そんな形式的な発表よりもっと本音を聞かせてくれ」という学生陣へのきびしい追及でも結構でございます。配布予定の資料がございましたら、お知らせ下さい。人数分はゼミナール側で用意し、当日配布いたします。またパソコンとプロジェクトで指導助言講釈等をご予定される場合は、その旨をお知らせ頂ければ、ゼミナール側で機材等用意いたします。

□ 喜界島アイランドキャンパス『延長戦』

18日（木）の前後にて実施*****
*****12月6・7日に延期実施
ゼミナール学生らの「10月農業体験」あるいは「加工体験見学」
（承前2）を実施。花良治みかん、たんかん収穫の見学体験や、農産品加工センターでの白ゴマ加工体験等を予定。

□ 事業成果の還元

- ・事業成果をまとめて「パワーポイントスライド集」あるいは冊子報告書を喜界町役場、喜界町商工会ほか学習会講師役の皆さまに配布
- ・次年度以降の白ゴマ関連事業に関する町予算への反映（期待）
- ・地域資源を活用した地域再生・喜界島のツーリズムポリシーを提案。
- ・同ポリシーの島内における共有・活用化、さらには今後の島内振興の基盤化へ
- ・可能ならば、雇用創出・雇用創造の手掛かりに

□ 雇用構築学ゼミナール／先端研究ゼミナールからの事業参加者

野添 幸輔 のぞえこうすけ 鹿児島県出身（事業リーダー）
蘭 知宏 あららぎ ともひろ 佐賀県出身（2011年、2012年の2回喜界島を訪問）
津川 遼 つがわりょう 熊本県出身（同）
畑山 悠希 はたやま ゆき 鹿児島県出身
（鹿児島大学法文学部社会保障法ゼミナールから出場、京都での外国人観光客ボランティアガイドサークル「グッドサマリタンクラブ」でかつてガイドを務める。祖母と父の出身地長崎県「小値賀町」でも白ゴマを栽培）
紺屋 博昭 こんや ひろあき 北海道出身（指導教員役）

■ 白ゴマ学習会＝振興会議ポスター ⇒

白ゴマに学ぶ、 白ゴマを活かす振興会議



2012年12月6日（木）17:00-19:00

喜界町役場 トレーニング室にて

喜界白ゴマに関わる喜界町の各界の皆さまと
鹿児島大学「雇用構築学ゼミナール／先端研究ゼミナール」のメンバーが
白ゴマを活用した特産品、収穫作業体験観光、産業振興プランなどを話し合う
『白ゴマに学び、白ゴマを活かす振興会議』開催！

ご参加、ご聴講をお待ちしております。

（10月18日に予定しておりました上記事業は台風21号の接近により順延となり、12月6日に改めて開催することになりました）

講師パネリスト

吉行 進 氏（喜界町企画課）
實 浩希 氏（喜界町産業振興課）
岩川 信一 氏（喜界町商工会）
竹下 繁樹 氏（あまみ農業協同組合喜界事業本部）
南村 和弥 氏（白ゴマ生産農家）
杉俣 紘二郎 氏（白ゴマ生産農家）
外内 淳 氏（まち歩きボランティアガイド事務局長）
東 亮輔 氏（喜界島観光物産協会事務局）

ゼミナールメンバー

野添 幸輔（当事業実施責任者・鹿児島大学法文学部法政策学科 4 年）
蘭 知宏（鹿児島大学法文学部法政策学科 4 年）
津川 遼（鹿児島大学法文学部法政策学科 4 年）
畑山 悠希（鹿児島大学法文学部法政策学科 3 年）
紺屋 博昭（当事業指導教員役・鹿児島大学大学院司法政策研究科）

日本一の白ゴマ

喜界島で生産される白ゴマって、日本一という事実。
皆さんご存知でした？

品質と生産量ともに日本一の喜界白ゴマの魅力を発信するべく、
私たちゼミナールはアクションを起こします。

白ゴマと観光の連携、雇用創出の可能性など
小さなゴマの粒から出来る大きなことを考えてみます。
皆さんも一緒に考えてみませんか。

ゆるキャラ誕生？

いまや日本各地に存在するご当地ゆるキャラ。
喜界島にも存在したっておかしくありません。

喜界島には島在来の作物が多いので、
代表的な作物それぞれでキャラクター化してみたり。

おもしろいかもしれませぬ。
堅苦しい会議にすることなく、
私たちゼミナールはユニークな視点から投げかけてみます。